

黒部ルート見学会の行程



■ 黒部ルート（樺平～仙人谷～黒部ダム）

黒部ルートは、日本電力株式会社が黒部川第三発電所の取水予定地（仙人谷ダム）への資材輸送を行うために建設した樺平から仙人谷までの軌道隧道（上部軌道）と、後に関西電力株式会社が黒部川第四発電所、黒部ダムの資材運搬用として建設した黒部ダムから仙人谷までのルートを総称したものです。

いずれも社運をかけた難工事であったことから、人員と資機材運搬に必要な最小限度の設備となっており、現在も発電所やダム、送電線を守るために欠かせない工事輸送用ルートになっています。

豎坑エレベーター・上部専用軌道（バッテリートロッコ列車）



このエレベーターと上部専用軌道（バッテリートロッコ列車）は、黒部川第三発電所の取水ダムである「仙人谷ダム」建設のために作られた輸送ルートです。

付近の河川の勾配が急であり、樺平から河川沿いに鉄道を延長することが不可能であったため、山の山腹を垂直に貫く「豎坑」と、「トンネル」を開削し、バッテリートロッコ列車によって運行しています。

エレベーターは、直径5.5 m、高さ200 mあり、建設当時は日本一といわれていました。

また、バッテリートロッコ列車は、現在、エレベーター上部から黒部川第四発電所までの6.5 kmを運行しており、途中阿曽原～仙人谷間では、小説で有名な「高熱隧道」（約500 m）を通過します。



豎坑上部展望台からの眺め



バッテリートロッコ列車



バッテリートロッコ列車から見た高熱
ずい道



バッテリートロッコ列車から降りて景色を眺める参加者



仙人谷ダム

建設に当たって、まず直面した大きな問題は、建設用ルートの開削とそのための資材運搬方法でした。

樫平から上流は峻険さが一層厳しく絶壁が立ちはだかり、わずかに調査測量のために切り開いた歩道（現在の水平歩道）がこの断崖に取り付けてある程度でした。

このようなところへ軌道をさらに延長することはできないため、高さ200mの豎坑エレベーターと仙人谷ダムまでの軌道隧道を設けました。

黒部川第四発電所



発電所の完成は、電力供給に大きく貢献したばかりでなく、黒部川全体の流量を調整し、下流発電所の発電能力を高めました。

発電所は、国立公園内ということから、自然環境を守るため、すべて地下式になっています。

現在は無人化されており、富山市にある、関西電力株式会社北陸支社 北陸給電制御所から遠隔操作を行っています。



黒部川第四発電所での説明

インクライン



インクラインは、黒部トンネルの端に当たる作廊（標高1,325 m）と黒部川第四発電所（標高869 m）をつなぐ軌道です。

両地点は高低差が大きく、傾斜角度が34度、斜距離815 mとなっており、巨大な発電機器を輸送するため、積載能力は25 tに設計されています。

このインクラインの建設工事は、急傾斜の長大斜坑を掘削するという点で、当時、世界に例のないものでした。



インクラインから専用バスに乗換え

黒部トンネル内専用バス



タル沢横坑から見える剣岳